

1 古代山城とは何か

7世紀から8世紀にかけて、西日本に築かれた山城を古代山城とよぶ。史料では「城」と読み、その造営を「築城」と記す。「築」が土を突き固める意味であることから、土塁などの城壁を主体とした施設を「城」と称したとみられる。

築城の目的は、ヤマト王権によって外敵の侵入を防ぐことにあったとする説が定説であるが、地域支配の拠点づくりにも大きな役割を果たしたとも考えられている。

※山城の読み方（やまじろ・やましろ・さんじょう・き）

□朝鮮式山城 13城 大野城・基肆城・金田城・鞠智城・屋嶋城・高安城・怡土城
(未発見：長門城・三尾城・三野城・稲積城・茨城・常城)

□神籠石式山城 史料に記載のない16の山城。城壁線に列石。

長門城	天智4(665)年築	所在地不明(山口県)
大野城	天智4(665)年築・文武2(698)年繕	福岡県大野城市・太宰府市・宇美町
基肆城	天智4(665)年築・文武2(698)年繕	佐賀県基山町、福岡県筑紫野市
金田城	天智6(667)年築	長崎県対馬市
屋嶋城	天智6(667)年築	香川県高松市
高安城	天智6(667)年築・天智9(670)年修・文武2(698)年修 大宝元(701)年廃	大阪府八尾市、奈良県平群町・三郷町
三尾城	天武元(672)年陥	所在地不明(滋賀県)
鞠智城	文武2(698)年繕	熊本県山鹿市・菊池市
三野城	文武3(699)年修	所在地不明(福岡県)
稲積城	文武3(699)年修	所在地不明(福岡県)
常城	養老3(719)年停	所在地不明(広島県)
茨城	養老3(719)年停	所在地不明(広島県)



第1図 古代山城分布図

2 古代山城の5W1H

□いつ（築城時期）

- ・白村江の敗戦と東アジア情勢 百済を救う役 朝倉橘広庭宮
- ・天智朝の防衛戦略
 - 天智二（663）年 白村江敗戦（なぜ超大国の唐と戦争したのか）
 - 天智三（664）年 「於對馬嶋壺岐嶋筑紫國等置防與烽 又於筑紫築大堤名曰水城」
 - 天智四（665）年 「遣達率答本春初築城長門國、
遣達率憶礼福留達率四比福夫於筑紫國大野及椽二城

定説 白村江での敗戦を契機、唐・新羅連合軍の進攻に備えた国防策をとる。

亡命百済人が朝鮮式山城等を築城した。

- ・文献史料に見る古代山城の展開 7世紀後半～8世紀初頭（年表参照）
短期間に築城期・修築期・廃絶期
- ・考古資料（出土土器）からみた年代 7世紀中頃～8世紀前半。
※考古学的な年代の決め方・紀年銘資料・年代測定・城の分類などによる
- ・出土土器の年代 7世紀後半に集中
- ・土塁（列石）構造による変化（韓国の山城との対比）
- ・大野城太宰府口城門出土木柱の年輪年代測定結果
神籠石式山城の築城時期については、大きくは、朝鮮式山城の築城より古いとする説と、新しく考える説に分かれる

□どこに（分布・立地）古代山城の分布は、日本海側には見られず九州北部と瀬戸内地域に集中する。九州北部では、対馬の金田城^{かねだじょう}を除いて内陸部に位置し、大宰府地域を中心とした放射状の配置となる。また、瀬戸内地域では中国地方と四国に帯状に配置されている。こうした分布から、朝鮮半島から畿内にいたる主要ルートの防御を目的にしていたことがうかがえる

□誰が 築城に関わった人：設置者・築城主体者・設計者・建設者・作業者

作業内容：土木 石工 大工 木工 鉄生産 運搬 食糧 武器武具製作など

設置者：ヤマト王権・地方官（大宰・総領）・地方豪族・亡命百済人・渡来系氏族など

達率 百済では地方の城の長官職 兵法に通じる 1城に1人の達率を派遣

※天智八年 「天皇、高安嶺にお登りになり、城の修築をされた。しかし、民が疲弊しているのを憐れみ工事を中止された。」→作業に百姓を動員

朝鮮式山城・神籠石式山城（九州の神籠石式山城と瀬戸内の神籠石式山城）の共通性

□何を（内容） 立地や構造

- ・古代山城は、戦略上の要所に立地。主要官道だけでなく、山道や間道とも関係。
- ・古代山城は、城壁線と地形の関係によって立地の分類。
規模が大きく比較的高い標高を占地した一群と、規模が小さく平地にした一群に分けられる。
（分布図参照）
- ・古代山城は全周が2.8～6.5 kmと、韓国に比べて比較的規模が大きい。

二つの古代山城 朝鮮式山城と神籠石式山城 (参考：年表)

- ・朝鮮式山城は663年の白村江敗戦後に西日本各地に築城が記録された山城のこと。

665年の長門城(不明)、大野城(福岡県)・基肄城(佐賀県・福岡県)の築城記事を嚆矢として9世紀末までに、14城の築城や修築、廃城に関する記事が散見される。所在がわかっているのは、このうちの7城である。

- ・古代山城は、山の険しい自然地形を利用した軍事施設であり、朝鮮半島で発達した形態が七世紀後半に日本へ導入された。中世の山城には繋がらない。

※実戦経験はなし。ただし「壬申の乱」でいくつかの山城が登場している。

- ・古代山城がつくられる以前の防御施設には、弥生時代の環濠集落・古墳時代の居館がある。

※『日本書紀』の用例 稲城はヤマト政権内部の権力争いのために築造され、柵は東北地方の支配拠点とみなすことができる。そして城は、664年の水城、翌年の大野城・基肄城の記述が最初であり、中央政府が対外的な意図を持った防衛施設の拠点として用語が使用されている。

これらの古代山城の築城技術については、山岳地形に富んだ朝鮮半島で発達した山城の築城に系譜が求められ、大野城や基肄城の築城には、百済の亡命武官のかかわりが記されている。こうした朝鮮半島の山城との共通性から、これらの古代山城を朝鮮式山城とよんでいる。

神籠石式(系)山城 一方で、史料に記載のない16の山城も発見されている。城壁線に列石をめぐらす特徴がある。明治時代にこれを靈域とする論者によって「神籠石」の名称がつけられた。現在は調査の結果、山城と位置づけられるようになった。

神籠石の名称 久留米市の高良山の山腹を取り巻く列石の事。高良山では馬蹄石の名があるくぼんだ岩盤を、まさしく磐座としての神籠石とよんでいた。江戸時代後期には神籠石に隣接する列石も神籠石と混用してよばれるようになっていた。

○古代山城の施設 ・城壁 土塁、石塁、列石 折れ線と曲線 城門 水門

城門 外郭線でもっとも重要な施設が城門。門の形式には掘立柱構造と礎石式構造

平門式と懸門式。蹴放、床面の石敷に階段を設けた例もある。

内部施設 大野城・基肄城・鬼ノ城・鞠智城 兵舎や倉庫となる掘立柱建物や礎石建物

大野城 70余棟の建物跡 基肄城 40棟ほどの建物跡

□なぜ(目的) 築城の目的 対外的 内政

山城の分布は日本海側と瀬戸内海及び九州の内陸

筑紫大宰栗隈王 672年 壬申の乱 出兵依頼に対して「筑紫国は以前から辺賊の難に備えている。そもそも城を高くし溝を深くし、海に臨んで守るのは、内の賊のためではない」

□どのように(築城方法) ○土塁の構築

○版築工法(土を強く突き固める技法) 築土工法 敷粗朶・敷葉工法

○石積み工法 石塁(総石垣) 谷部や谷頭を遮断するために石築する。

石積みの種類 布積み(整層積み)・乱積み(乱層積み)

石材 自然石あるいは野面(板石・玉石)・割石(粗・精)・切石(予め加工済み)

3 大宰府の成立と古代山城

□防衛のマスタープラン 古代山城との関わり（水城・大野城・基肄城・阿志岐城）水城は遮断城

□朝鮮半島扶余の泗沘城との類似 何を守ったのか

□政庁 I - 1 の建物群の性格 筑紫大宰かそれとも別の性格の建物か？

政庁 I 期 - 古段階の遺構群の評価 真北方位の建物の意義

※白村江敗戦を契機として現在地に移転したとする説が、古代史では定説

筑紫の状況 660年百済滅亡、663年の白村江敗戦、664年に水城、665年大野城・基肄城。

□朝倉橋広庭宮と大宰府の成立 朝倉説と大宰府説

コーヒーブレイク

・二日市地峡帯と四王寺山の地形の成り立ち 水城と大野城のプラタモリの考察

4 古代山城の兵士 防人制と軍団制

奈良時代の律令制下では、戸籍に基づく徴兵制が敷かれ、徴発された一般農民出身の兵士は各国ごとの軍団に編成される。

□太宰府市国分松本遺跡 7世紀末の戸籍に関する木簡出土 現在の福岡市西区・糸島市にあたる嶋評の戸籍で「兵士」の文字 文献史学での軍団制への移行を7世紀末段階で裏付ける資料

□佐賀県唐津市中原遺跡「甲斐国」・「戌」銘木簡出土 防人が肥前国の沿岸にも配置されていたことを示すだけでなく、8世紀末に、東国防人廃止後も現地に留まっていた東国防人の実在を示す資料
防人もしくは軍団兵士が古代山城の警固や修繕などを担っていたと考えられる

山城の維持管理 所在国の国司が担う。ただし大野城は大宰府の管轄（各国の軍団兵士） 警固警備を担う → 戦う兵士は常駐していたのか？

□古代山城の軍事的機能 『日本書紀』の戦闘記事を分析した小嶋篤氏によれば、山城や砦などの防御施設主戦場にした戦闘は乏しく、最も重視されたのは交通路の封鎖であり、峠（関）、河川（渡河地点）、港（上陸地点）を迎撃地点として陣を構えて、弓矢による戦闘が主体をなしていたという。壬申の乱での三野城と高安城を舞台にした使われ方も踏まえて、古代山城は戦場となることを想定しておらず、兵士を派兵するための集結場所、供給する兵糧・武器の守衛、高所からの敵軍把握が想定されていたと推測（朝鮮式山城の兵站機能）

□節度使と警固式（備辺式） 奈良時代に道ごとに軍団制を強化する目的で、兵士の訓練や軍備などを監察する節度使が設置された。警固式は西海道軍団の軍備運用マニュアル
天平四（732）年に節度使を派遣。唐・新羅などへの警戒心から辺境防備に注力
天平宝字三（759）年 「警固式によると博多大津及び壱岐対馬などの要害の地には船百隻を置き不慮に備えるが、今は船がない」

5 筑紫城（大野城・基肆城・鞠智城）

□筑紫城 718年 養老衛禁律 「筑紫城」に不法侵入した場合の罰則あり。

ほとんどの山城は8世紀前半までに廃城。九州では（大野城・基肆城・鞠智城）のみ存続。筑紫城は九州のこの3つの山城のことか。

□筑紫城（3つの山城）の特徴

- ・698年に大宰府が大野城・基肆城・鞠智城を修理（『続日本紀』）。8世紀後半以降も存続
 - ・大野城 49棟の高床倉庫（短辺が3間（柱と柱の間の数）で、長辺が5間の礎石式の高床倉）奈良時代の前半頃から末頃 総計約35棟、基肆城も同一の規模で総計約35棟
 - ・大規模な高床倉庫の存在 大野城：3×8間以上の建物、基肆城：3×10間の建物 法倉か
- 大野城・鞠智城に礎石・掘立柱併用建物。8世紀前半頃 高品位

6 大宰府と筑紫城の連動した動き

□筑紫城の建物の変遷 3つの画期

I期：大宰府政庁I期 II期：大宰府政庁II期（奈良時代） III期：大宰府政庁II期（平安時代）

I期（664年～8世紀初）大野城と鞠智城に掘立式側柱建物 大野城は総柱建物へと建替え
大野城・基肆城・鞠智城に礎石式建物出現 3×8間以上（おそらく9間か）の長倉
文武二年（698）の大野城・基肆城・鞠智城の修繕記事

II期（8世紀前半～8世紀末）大宰府政庁II期の殿舎が完成から794年の平安遷都の頃まで
大野城と基肆城では統一規格の3×5間礎石倉庫 礎石・掘立柱併用建 南北棟→東西棟
鞠智城 3×4間 礎石掘立柱併用建物 格の高い礎石式倉庫築造

III期（9世紀～10世紀代）大野城3×4間の礎石式総柱建物 基肆城なし

鞠智城3×4間礎石高床倉庫、八角形建物や各種の倉庫が造営不動穀蓄積の停滞期から増加期に
転じたとも考えられる。※筑紫城は時期変遷と存続時期およそ合致 7世紀末から8世紀前半の長
倉形式の礎石総柱建物の出現と続く礎石式倉庫群の造営、さらには9世紀の礎石倉庫群の拡張は同
じ歩調と理解できる。

	大宰府政庁	水城西門	大宰府城門	大野城建物群			鞠智城建物群		特記事項	
				Ⅰ期A	Ⅰ期B	Ⅰ期C	Ⅱ期	Ⅲ期		
7C第3	Ⅰ期-1	Ⅰ期	Ⅰ期	Ⅰ期A	掘立柱側柱		Ⅰ期	掘立柱側柱	7C第3	
	Ⅰ期-2			Ⅰ期B	掘立柱総柱					
	Ⅰ期-3			Ⅰ期C	礎石大型総柱					
8C	Ⅱ期 礎石式 朝堂院様式	Ⅱ期	Ⅱ期	Ⅱ期A	礎石総柱3×5(基壇、掘立柱併用)		Ⅱ期	掘立柱総柱、礎石大型総柱	補注記事 8C 築前・筑後・肥 前国瓦棺木類	
				Ⅱ期B	礎石総柱3×5・南北棟			Ⅲ期		礎石総柱3×4(掘立柱併用・周溝)
				Ⅱ期C	礎石総柱3×5・東西棟					
9C	Ⅲ期 礎石式 朝堂院様式	Ⅲ期	Ⅲ期	Ⅲ期	礎石総柱3×4		Ⅳ期A	掘立柱側柱・総柱、 礎石総柱3×4、 八角形建物	9C 鞠智城院 千鳥倉11宇火	
10C								Ⅳ期B		礎石総柱
11C										

おわりに —筑紫城の倉庫群の意義—

朝鮮式山城は、当初は天智朝の本土防衛のために築城されたが、東アジア情勢の変化を受けて軍事的な実践要地そして兵站基地の役割だけでなく、災害対応を含めた内政面での役割にも比重を移していると思われる。

西海道は、他地域と異なり中央にとって歴史的に警戒すべき地域でもあった。地域の豪族層によって成立している郡衙正倉に頼ることなく、大宰府の管轄下で独自の財源を確保しておくために大野城・基肆城・鞠智城の内部に不動倉とでもいうべき稲倉を形成したと思われる。そこには、大宝初年より拡充された倉庫制度が国司を通じて国家管理を進めようとした姿が重なってくる。大野城・基肆城そして鞠智城の大型で礎石化した倉庫群が、8世紀前半に整備された意図が見えてくる。つまり、古代山城に膨大に蓄積された稲穀は、非常事態への備えであるだけでなく、地域支配に不可欠な不動穀としての性格を備えていたということになる。8世紀前半になると太宰府口城門は防御機能よりも荘厳化や威厳を保つ方向に転換されるなど大きな方針の変更があったことを物語っている。

また、9世紀になって大野城と鞠智城で倉庫群の大規模な拡張がなされる。各種の史料からは8世紀末ごろから新羅への脅威や外国人がもたらす疫病（感染症）に対する対外的な不安がうかがえ、こうした背景の中で古代山城は物心両面での支えとなる存在としてクローズアップされたと考えられる。山城の立地は稲穀等を長年にわたって保存するうえで平地より適していたということである。争乱や盗難・破損などの人的な要因、地震や台風、水害・火災などの災害要因、温湿度や紫外線などによる劣化要因、虫やカビなどによる生物要因など、さまざまな影響要因について考慮した結果だと考えられる。

最も恐れるのが略奪や盗難である。ひとたび乱が起きると、場合によっては灰塵に帰することも想定される。当然ながら山城は要害堅固である。しかも、昼夜を問わず警備がなされていた。つまり収納物を護るのにこれ以上の場所はないであろう。この強固な警備が山城に倉庫を造営した最も大きな要因といえるかもしれない。このように朝鮮式山城は兵站から備蓄へと主要な機能が変化したのである。

表1 古代山城関連記事抄録

西暦	記事内容	出典
	狭穂彦、稲を積みて城を作る。これを稲城という。火を放ち、その城を焼く	『日本書紀』垂仁五年
	稲城を造りて待ちて戦う	『日本書紀』雄略一四年
587年	稲城を築きて戦う	『日本書紀』崇峻即位前紀
644年	家の外に城柵を作り、門の旁らに兵庫をつくる	『日本書紀』皇極三年
645年	法興寺に入り、城となして備える	『日本書紀』皇極四年
647年	淳足柵を造り、柵戸を置く	『日本書紀』孝徳三年
648年	磐舟柵を治す	『日本書紀』孝徳四年
658年	都岐沙羅の柵造に位二階を授く	『日本書紀』斉明四年
660年	肅慎おのが柵によりて戦う	『日本書紀』斉明六年
664年	対馬嶋・壱岐嶋・筑紫国などに防と烽を置く。筑紫に水城を築く	『日本書紀』天智三年
665年	長門国に築城、筑紫国に大野・椽の二城を築く	『日本書紀』天智四年
667年	倭国に高安城、讃吉国に屋嶋城、対馬国に金田城を築く	『日本書紀』天智六年
669年	高安城の工事を中止する	『日本書紀』天智八年八月
同年	高安城を修理し、畿内の田税を収める	『日本書紀』天智八年冬
670年	高安城を修理し、穀・塩を貯え、長門に一城、筑紫に二城を築く	『日本書紀』天智九年
672年	筑紫大宰、筑紫国の城を高く堀を深くして外敵に備える	『日本書紀』天武元年六月
同年	三尾城を攻め落とす	『日本書紀』天武元年七月
同年	高安城の税倉が焼失する七月	『日本書紀』天武元年
675年	天皇、高安城に幸す	『日本書紀』天武四年
679年	竜田山、大坂山に関おき、難波に羅城を築く	『日本書紀』天武八年
689年	筑紫に位記（辞令）を送り、新城を視察させる	『日本書紀』持統三年九月
同年	天皇、高安城に幸す	『日本書紀』持統三年十月
698年	大宰府に大野・基肄・鞠智の三城を修理させる	『続日本紀』文武二年五月
同年	高安城を修理する	『続日本紀』文武二年八月
699年	高安城を修理する	『続日本紀』文武三年九月
同年	大宰府に三野・稲積の二城を修理させる	『続日本紀』文武三年十二月
701年	高安城を廃する	『続日本紀』大宝元年
712年	河内国高安の烽を廃し、高見の烽と大倭国に春日の烽をおく	『続日本紀』和銅五年正月
同年	高安城に行幸する	『続日本紀』和銅五年八月
719年	備後国安那郡の茨城、葦田郡の常城を停廢する	『続日本紀』養老三年
8C中頃	基肄城の稲穀を筑前・筑後・肥等の国に分け与える（養老～天平年間）	大宰府跡出土木簡
756年	怡土城を築く	『続日本紀』天平勝宝八年
765年	築怡土城専知官、修理水城専知官任命	『続日本紀』天平神護元年
772年	筑紫菅大津城監を罷む	『続日本紀』宝龜三年
774年	大宰府、四王院を建立する	『扶桑略記』宝龜五年
801年	大野山寺の四天王法を停む	『類従国史延暦二〇年
807年	四王院を旧に復す	『類従国史』大同二年
809年	大宰府をして四天王法を行わせる	『類従国史』大同四年
811年	四天王寺に釈迦像を造る	『日本後記』弘仁二年
820年	観世音寺講師に四王寺悔過を修めさせる	『日本後記』弘仁一一年
826年	大宰府の兵士を廃し、選士・衛卒を置くことを請許される。・・・兵士の名は防禦に備えるもの・・・豊後国大野・直入両郡は騎獵の児を出し、兵における要となる。・・・大野城修理等、旧例はみな兵士をもって充てる	『類従三代格』天長三年
840年	大宰府の大主城1員を廃して、主厨。主船各1員を置く	『続日本後記』承和七年
851年	延暦寺僧円珍、入唐のため大宰府に到り四王院（大野城）に止住する	『平安遺文』仁寿元年
858年	菊地城院の兵庫の鼓自ら鳴る（2月）菊地城院の兵庫の鼓自ら鳴る（6月）同城の不動倉十一宇焼く	『文徳実録』天安二年
870年	大宰府の府庫および大野城の器杖を交替検定させる	『類従三代格』貞観一二年
875年	群鳥数百、菊地郡（城か）倉舎の葺草をかみ抜く	『三代実録』貞観一七年
876年	大野城衛卒の糧米は、旧に依り城庫に納めさせる	『類従三代格』貞観一八年
879年	肥後国菊地郡城境（院）の兵庫自ら鳴る	『三代実録』元慶三年
905年	大野城山壺処	『観世音寺資財帳』延喜五年

表2 古代山城一覽

学史的 分類	朝鮮式山城						瀬戸内の神籠石系山城					九州の神籠石系山城								所在地の不明な山城									
山城名	大野城	基肄城	金田城	鞠智城	屋嶋城	高安城	播磨城山城	大廻小廻城	鬼ノ城	讃岐城山城	永納城	石城山城	御所ヶ谷城	阿志岐城	高良山城	雷山城	女山城	鹿毛馬城	おつぼ山城	帯隈山城	杷木城	唐原城	長門城	三野城	稻積城	常城	茨城	三尾城	大津城
時期	7世紀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	8世紀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	9世紀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	10世紀	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
立地	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
石塁・石垣	●	●	●	●	●	?	?	●	●	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
土塁列石	●	?	?	●	?	?	●	●	●	●	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
懸門	●	?	●	?	●	?	?	●	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	
平門	●	●	?	○	?	?	?	●	●	○	●	●	?	?	?	?	?	?	?	○	?	?	?	?	?	?	?	?	
段差	●	?	●	?	●	?	?	●	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	
門礎石	○ ● ■	○	▲	○ ▲	?	?	□	?	□	?	□	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	
貯水池	○	○	?	●	○	?	?	?	●	?	?	?	○	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	
鍛冶工房	○	?	○	?	?	?	?	?	●	?	●	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	
建物	●	●	●	●	?	●	?	?	●	?	?	?	○	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	○	
鉄鏃出土	?	?	?	●	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	?	

凡例

■ 出土遺物からみて確実

▨ 出土遺物はないが可能性がある

□ 僅かな遺物が出土したが不確実